

古墳時代の金属製品

－副葬品、特に装飾付大刀について－

辛川 あかり

1. はじめに

- ・古墳時代における金属製品…集落・生産遺跡<古墳・横穴
- ・副葬品…着装品／所有物／儀式用品←当時の生活、被葬者の身分・地位を探るヒント

★古墳時代前・中・後期の金属製副葬品について

★古墳時代後期に盛行する装飾付大刀について

2. 古墳時代前・中・後期のながれ

【前期】畿内を中心とした統合体「ヤマト政権」の成立 [～4C末]

○弥生時代の鉄製品からの流れ

- ・祭祀具としての青銅製品の変化（銅鐸・銅剣・銅戈→銅鏡）
- ・鉄製農工具、武器の副葬（祭祀具としての金属製品）

◆鉄器の普及と定着

- ・道具の鉄製品化・機能分化が進む

【中期】軍事的協力関係に基づく各地特定首長との連合体制への転換 [4C末～5C末]

○技術革新の時代

- ・渡来人：倭国からの招来／百済国・伽耶国からの派遣／戦乱から逃れ倭国へ移住
⇒新たな技術等の導入（窯業、鉄鍛冶、金工、、馬匹生産、牛馬利用など）

◆手工業生産の整備・再編・広域分業システムなどの経済革新

- ・新たな鉄器生産技術（鉄生産道具・鉄素材・馬具などの登場）
- ・金工品の内製化（金銅製品の普及）

◆大陸・韓半島との交渉の拡大

- ・半島系金属製品の増加
- ・最先端技術の継続的受容

【後期】中央集権的・機能分化した政治機構の成立 [5C末～7C初]

○ミヤケ、国造、部民制の成立

⇒職掌氏族の確立・職掌の固定化

◆特定氏族による手工業生産体制の確立・拡大

- ・地方での傑出した遺物をもつ古墳の点在
- ・倭製金属製品・金工製品の技術水準が上昇

3. 時期ごとの副葬品（非金属製品も含む）

【前期】雪野山古墳（滋賀県）、椿井大塚古墳（京都府）、浦間茶臼山古墳（岡山市）など

- ・銅鏡
- ・農工漁具（鎌、鉋、鑿、刀子、ヤスなど）
- ・武器（銅鏃・鉄鏃、鉄ヤリ、鉄剣、鉄刀）
- ・石製品（鋏形石、車輪石、琴柱形石製品、紡錘車形石製品）
- ・玉類（翡翠・碧玉製勾玉、碧玉製管玉、ガラス玉、翡翠・碧玉製玉類）
- ・豎櫛

●金属製副葬品の量は、儀礼用品<所有物

●銅鏡＋石製品（鋏形石・車輪石）の組み合わせ ⇒「ヤマト政権」との友好の象徴？

【中期】七観古墳（大阪府）、五条猫塚古墳（奈良県）、一本松古墳（岡山市）など

- ・銅鏡
- ・農工具（鉋、斧、柄付手斧、刀子、鉄鎚、鉄鉗、鉄床、鉄鋌など）
- ・武器（鉄鏃、鉄ヤリ、鉄鉾、鉄剣、鉄刀、素環頭大刀、蛇行剣）
- ・武具（衝角付冑・眉庇付冑・半島系冑、板甲・札甲など）
- ・馬具（轡、鞍、輪鐙、雲珠、鉸具、馬鈴など）
- ・装身具（垂飾付耳飾り、帯金具）
- ・玉類（翡翠・碧玉・瑪瑙・滑石製勾玉、滑石製管玉、ガラス玉など）
- ・(須恵器)

●銅鏃、漁具はみられなくなる

●武具、馬具、製鉄業関連工具の出現

●金属製副葬品の量は、儀礼用品<着用品<所有物

●武器・武具＋馬具の組み合わせ、武器の一括埋葬 ⇒軍事的地位を示す？

【後期】藤ノ木古墳（奈良県）、綿貫観音山古墳（群馬県）、塚段古墳（岡山市）など

- ・銅鏡
- ・農工具（鎌、鉋、鑿、刀子、斧、鋤）
- ・武器（鉄鏃、鉄剣、鉄刀、装飾付大刀）
- ・武具（衝角付冑・半島系冑、札甲など）
- ・馬具（轡、鞍、鐙、鉸具、雲珠、辻金具、飾金具、杏葉、馬鈴など）
- ・装身具（冠・帽、沓、耳環、大帯、魚佩）
- ・玉類（瑪瑙・金属製勾玉、碧玉製管玉、ガラス玉、金属・水晶製玉類）
- ・須恵器、青銅製容器

●板甲は札甲に転換される

●冠・帽、装飾付大刀など身分表象的の出現

●金属製副葬品の量は、着用品<所有物＝儀礼用品

●馬具の全部品を揃えてもつ古墳が増える

●馬具＋装飾付大刀の組み合わせ ⇒政治的身分・地位を示す？

表 1 : 金属製副葬品のたまかな編年

種類	時期		弥生後期	前期	中期	後期
農具	鎌	直刃	■	■	■	
		曲刃			■	■
	鍬鋤	方形板	■	■	■	
		U字			■	■
工具	斧	板状	■	■		
		有袋		■	■	■
	刀子		■	■	■	
	鉋		■	■	■	
	鑿		■	■	■	
	錐		■	■	■	
	鋸		■	■	■	
	鉄鉗			■	■	
	鉄鎚			■	■	
	鉄床				■	■
漁具	銚・ヤス		■	■	■	
	釣針		■	■	■	
鏡	舶載		■	■	■	
	仿製		■	■	■	
武器	鉄鍬	短頸		■	■	
		長頸			■	■
	長柄	銅戈	■			
		銅矛	■			
		ヤリ		■	■	
	鉄鉾	鉄鉾		■	■	
		鉄鉾		■	■	
	劍	銅劍	■			
		鉄劍		■	■	
	刀	鉄刀		■	■	
		半島系			■	■
		倭系			■	■
折衷系				■	■	
武具	甲	板甲		■	■	
		札甲			■	■
	胄	衝角付			■	■
		眉庇付			■	■
	各種防具			■	■	
装身具	帶金具			■	■	
	大帯				■	
	冠・帽			■	■	
	耳飾	垂飾付			■	■
		耳環			■	■
	飾履(沓)			■	■	
馬具	轡			■	■	
	鞍			■	■	
	鐙			■	■	
	杏葉			■	■	
	馬鐸			■	■	

●農具

- ・使用は弥生中期頃から
- ・弥生時代：石・木＞鉄
- ・古墳時代：鉄＞石・木

●工具

- ・大型製材用工具の出現
- ・小型工具の機能分化
- ◎木器生産体制の変化
- 日常生活に即した木器生産
- ⇒特別木工集団による生産
- ・中期に製鉄用工具が出現

●漁具

- ・鉄製漁具の出現
- ・骨角製品も前期中頃まで使用される

●鏡

- ・素材は依然として青銅
- ・仿製の副葬開始

●武器

- ・鉄劍・鉄刀は弥生中期頃から継続して存在
- ・鉄鍬・ヤリ・鉄鉾の出現
- ・後期に装飾付大刀が出現

●武具

- ・甲は木・革製⇒鉄製へ
- ・中期には武具が出揃う

●装身具

- ・中期中頃に出現
- ・中期は半島色強め
- ・帯系は仏教伝来以降消滅

●馬具

- ・中期に出現、普及
- ・後期に金銅製馬具の増加

4. 装飾付大刀

何らかの装飾を施した鉄刀の総称。把の先端に特徴的な装飾が付く。

本格的な流入は古墳時代中期後半以降だが、それ以前にも単発的な流入品がある。

- 列島内で成立した木製・鹿角製の伝統的な把頭・把縁、鞘を装着するもの ⇒【倭系】
- 祖型が半島製のもの／形態、製作・装飾技法の影響を強く受けたもの ⇒【半島系】
- 装具の製作技法に半島系、倭系両者の要素が混在するもの ⇒【折衷系】

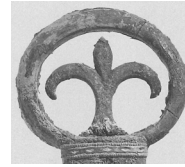
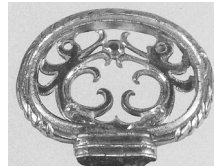
【倭系大刀】倭の伝統的な刀剣装具を復古的に採用し、金属の薄板等で装飾したもの

- 倭特有のもので、製作開始は中期後半頃
- 把頭を含め刀装具は基本的に鹿角製または木製。
- 把頭の祖型は中期の刀剣装具
- 金銀装の倭系大刀は各種装大刀のなかでも最上位の位置づけ
 - ・楔形柄頭大刀
 - ・振り環頭大刀
 - ・倒卵形柄頭大刀
 - ・側面菱形柄頭及び突起付把縁



【半島系大刀】朝鮮半島製の舶載品や、祖型となる装飾付大刀が朝鮮半島製のもの

- 舶載品の本格的流入は中期後半以降、国内生産開始は後期中頃
- 把頭は全て金属製
- 鐔をもたない
 - ・単龍環頭大刀
 - ・単鳳環頭大刀
 - ・双龍環頭大刀
 - ・双鳳環頭大刀
 - ・三累環頭大刀
 - ・三葉環頭大刀
 - ・獅嚙環頭大刀
- (・円頭大刀) ←祖型は半島産。



【折衷系大刀】渡来系の金工技術と伝統的意匠を融合させたもの

- 倭特有のもので、製作開始は後期中頃
- 把頭の芯は木製で、金属板を袋状にして芯に被せたもの
- 後期末頃に方頭大刀が出現、装飾付大刀は方頭大刀に集約される
- 腰に
 - ・円頭大刀
 - ・頭椎大刀
 - ・圭頭大刀
 - ・方頭大刀

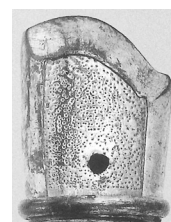
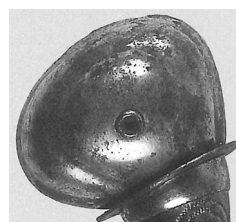


表 2 : 装飾付大刀の段階

西暦	陶邑編年	段階	装飾付大刀の様相	主要型式の消長	関連する主な政治的変動
500年	MT15 /	I 段階	<ul style="list-style-type: none"> 金銀装倭装大刀 振り環頭大刀の生産・展開 環頭大刀は限定的威信財 鉄製鍔、釧、両関成立 	倭装 単龍・単鳳環頭	<ul style="list-style-type: none"> 継体朝／反乱伝承とミヤケ設置
	TK10			頭円 椎頭	
550年	/	II 段階	<ul style="list-style-type: none"> 折衷系大刀が成立 環頭大刀は中国、百済などから舶載または渡来工人による倭製 	双龍環頭	<ul style="list-style-type: none"> 欽明朝 ／百濟外交の転換／内政の充実
	TK43			圭頭	
	/	III 段階	<ul style="list-style-type: none"> 列島内生産の本格開始 定型型式の連続生産体制確立 多様な大刀型式の展開 倭装大刀の衰退 		<ul style="list-style-type: none"> 敏達朝／物部氏主導政権 物部本宗家滅亡（587年）
	TK209				
600年	/	IV 段階	<ul style="list-style-type: none"> 生産体制の統合、外装の斉一化 方頭大刀の出現 装飾付大刀の終焉 		<ul style="list-style-type: none"> 推古朝／冠位制 蘇我氏滅亡（645年）
	TK217 /				
650年					

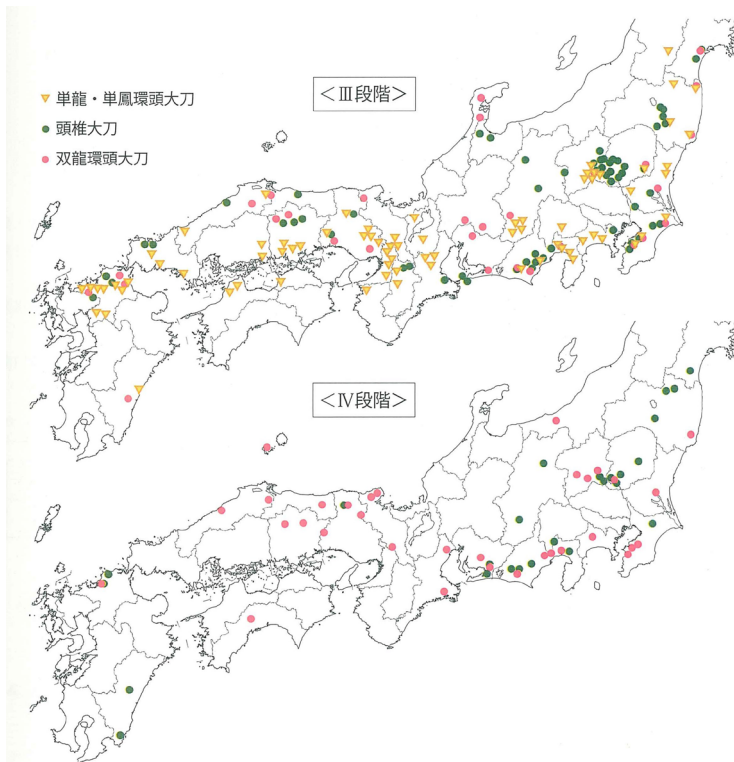


図 1 : 装飾付大刀主要形式の分布変化

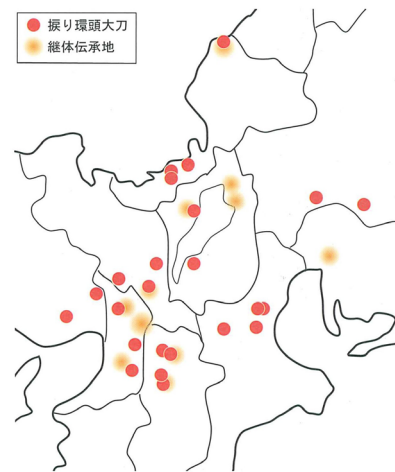


図 2 : 振り環頭大刀と継体伝承地の分布

写真：千賀久・村上恭通編『考古資料大観』7 弥生・古墳時代 鉄・金属製品 小学館